

令和4年度 事業報告

I 庶務に関する事業

1 総務の概要

1) 会員

(1) 会員数	令和5年3月31日	45 団体
(2) 会費徴収員数	令和5年3月31日	3,622 名
(3) 賛助会員	令和5年3月31日	団体会員 17 団体 個人会員 27 名

2) 役員

(理事 15 名、監事 3 名)

理 事	高橋芳幸、小野寺邦男、舘野浩一、志村宏夫、岩根重典、 上野 透、安達直和、倉山建造、森 俊介、東 孔明、 野田敏朗、迫田 潔、強谷雅彦、高橋 勉、湊 芳明、
監 事	大友 豊、天谷裕次、石川憲明

3) 役職員

区 分	常務理事	技術職員	事務職員	計
人 数	1	1	2	4

4) 会議

区 分	開 催 期 日	主 な 議 題
第 1 回定例理事会	令和 4 年 6 月 10 日 家畜改良事業団会議室	1 令和 3 年度事業報告、貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 2 令和 4 年度事業計画及び予算に関する件 3 理事及び監事の選任に関する件 4 第 11 回定時総会に報告する事項に関する件 5 その他
第 11 回定時総会	令和 4 年 6 月 24 日 AP 東京八重洲 X 会議室	1 令和 4 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 2 令和 4 年度会費の額及び徴収方法に関する件 3 理事及び監事の選任に関する件 4 その他
第 2 回定例理事会	令和 5 年 3 月 23 日 家畜改良事業団会議室	1 令和 5 年度事業計画及び収支予算に関する件 2 第 12 回定時総会の開催及び付議事項に関する件 3 令和 5 年度会費の額ならびに徴収方法に関する件 4 その他

5) 監事監査

令和4年5月24日(火)、日本家畜人工授精師協会事務所において、令和3年度事業報告および決算事項について監査を受けた。

II 事業の概要

1 実施事業

1) 優良技術発表全国大会開催事業

家畜人工授精および受精卵移植に携わる家畜人工授精技術者は、自ら創意工夫をこらし受胎率向上、繁殖効率改善に関する調査事例等の貴重な情報を保有している。

一方、近年の関連学会や研究会等では学術的な発表が主流を占めており、現場で生じている貴重な知見に関して意見交換を行える場合は、本協会が開催する優良技術発表全国大会のみになっている。

このようなことから、受胎率向上および繁殖効率改善に関する技術ならびに調査事例等の貴重な情報をより広く全国の家畜人工授精技術者に伝達し、家畜人工授精および受精卵移植に関する技術の向上と普及定着を図るため、令和5年2月13日(月)に日経ホール(東京都千代田区大手町)において対面での全国大会を開催した。しかし、コロナ禍の影響が残り、会場への参加者数は183名と例年の6割程度に留まった。

発表演題8題の中から選考委員による選考の結果、北海道友貞直氏の「泌乳牛における子宮内膜厚と受精卵移植の受胎率の関係」と、群馬県鮎貝哲成氏の「乳用牛の胚移植前6日目黄体の血流量簡易スコアの検討」が西川賞を受賞した。

また、令和2年度と3年度に行った録画放映の継続を要望する構成会員が多く、広く情報の提供と共有を促すために、大会終了後に録画配信も行った。視聴は大会終了後の令和5年2月27日～3月13日とし、視聴期間中318名が視聴した。

2) 講習会・機関誌発行等事業

以下の6つの事業を実施した。

(1) 家畜改良・家畜繁殖技術に関する講習会の開催

ア 家畜改良講習会

牛の育種改良に主眼を置き、農家指導で実効を上げるため、交配種雄牛選定のための正しい知識と種雄牛の遺伝的特性を最大に利用する手法の習得、最新のゲノミック評価の解釈とその活用、ならびに牛遺伝的不良形質に関する知識レベルの向上を図るための講習会を開催した。

区分	開催計画数	希望数	実施数	受講者数
乳用牛・肉用牛	6カ所	5カ所	2カ所	40名

イ 家畜繁殖技術講習会

家畜人工授精業務の現場で、即応可能な技術習得を希望する意欲的な人工授精技術者を対象に、飼養管理・繁殖管理、授精適期の判定技術、新たな繁殖関連技術・情報

について、技能向上と農家への助言指導力の賦与、新たな高度技術を習得するための繁殖技術講習会を以下のとおり開催した。

区 分	開催計画数	希望数	実施数	受講者数
牛	9カ所	12カ所	5カ所	92名

(2) 機関誌の発行

家畜人工授精および受精卵移植技術等に関し、近年急速に進歩している技術情報の紹介、繁殖効率向上に係わる飼養管理および繁殖管理技術の提供ならびに啓蒙を目的に、機関誌「家畜人工授精」を4回発行した。

(3) 家畜人工授精技術者等の表彰

表彰規定に基づき、岡山県家畜人工授精師協会から推薦のあった家畜人工授精技術功労者2名の表彰を行った。

(4) 技術の普及定着

家畜人工授精関連技術者の業務遂行に必要な最新情報および各種関係資料の収集、家畜改良・家畜繁殖技術講習会、全国大会等の企画調整ならびに調査業務を推進した。

(5) ブロック会議の開催

令和4年度に実施する各種事業の効果的な運営実施を図るため、事業推進ブロック会議を以下の6カ所で開催した。

ブロック	開催県	開催年月日	開催場所	備考
北海道・東北	山形県	令和4年8月 4日	天童ホテル	
関東・甲信越	山梨県	令和4年8月26日	山梨県立図書館	
東海・北陸	静岡県	令和4年8月 1日	レイアップビル御幸町	
近 畿	兵庫県	令和4年8月 9日	兵庫県農業会館	
中国・四国	高知県	令和4年9月 8日	ホテル高砂	
九州・沖縄	長崎県	令和4年9月13日	長崎県農協会館	台風のため日程変更

事務局欠席道府県（北海道、青森県、岩手県、富山県、福井県、三重県、滋賀県、茨城県、神奈川県、新潟県、長野県、鳥取県、岡山県、広島県、大分県、沖縄県）に対しては、会議終了後に会議資料一式を送付した。

(6) 家畜人工授精技術者動静調査

家畜人工授精師の実態把握に努める必要があることから、家畜人工授精技術者動静調査を行った。

2 その他事業

1) 家畜人工授精関係資料作成および情報発信事業

(1) 家畜人工授精講習会テキスト等作成

- ア) 家畜人工授精および家畜受精卵移植講習会テキスト用法令集を1,500部作製し、テキストと併せて頒布。
- イ) 家畜人工授精講習会テキスト（家畜人工授精編）1,100部作製。
- ウ) 家畜人工授精講習会テキスト（家畜体内受精卵・家畜体外受精卵移植編）300部作製。
- エ) 馬家畜人工授精講習会テキストを発刊、50部作製。
- オ) 家畜人工授精師のための牛の超音波検査マニュアルを5部作製し、頒布。
- カ) 家畜人工授精講習会テキスト（家畜体内受精卵・家畜体外受精卵移植編）改訂のため、執筆依頼。

(2) 情報の発信

機関誌およびホームページ等を活用して、本協会業務関連事項および乳用牛への黒毛和種交配状況(F1)調査等に関する情報を発信した。

2) その他の事業

本協会が、特にその実施が必要と認める次の事業を行った。

(1) 和牛遺伝資源流出防止対策緊急支援事業

家畜人工授精業務等実務者資質向上支援

(独立行政法人農畜産業振興機構助成事業)

家畜人工授精師等に対し、関連法令や和牛遺伝資源の重要性、関連技術に関する知識の習得等を通じ、ステータスの確保・向上を図るための取組を行った。

ア) 研修会

「家畜改良増殖法の一部を改正する法律」ならびに「家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律」に係る法令集、ガイドブックならびにQ&Aを用い、7道県（延べ17カ所）で改正法に係る研修会を開催した（参加者数750名）。研修会終了後にアンケート調査を実施したところ、理解できたとの回答は97.9%に達した。また、理解できなかったとした2.1%は、Webもしくはハイブリッド開催によるトラブルが原因（音声切断、画像配信停止等）であった。

イ) e-ラーニングによる理解度調査

理解度等を把握する一手段として、e-ラーニングを時間を限定して行った。

実施期間は令和5年3月7日～31日の約1か月間とし、対象は全国の家畜繁殖技術者とした。その結果、251名のログイン（研修会参加者19名、新規登録者232名）があり、合格者は194名であった。

(2) 新牛繁殖技術普及強化事業

(公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成事業)

牛の人工授精における直腸検査技術の正確性の向上を目指し、人工授精や受精卵移植による子牛生産性の向上を図るため、超音波検査技術の導入を促す目的で、指導者育成ならびに実技研修会を開催して技術習得の場を設け、繁殖成績の向上を図ると共に、関連する情報を提供することを目的とする次に掲げる事業を実施した。

ア) 授精技術者実態調査事業

超音波検査技術研修会の進め方について、研修会の持ち方や研修内容等の充実を図るため、985名の会員を対象に研修会で習得したい内容、あるいは超音波検査技術を自己の業務内に取り込む上での問題点等をアンケート形式で意見を集積し、研修会資料の基礎とした。

イ) 事業推進委員会開催等事業

令和4年7月11日(月)、AP東京八重洲12階Jルームにおいて、専門家からなる標記委員会を開催し、本事業の効率的かつ円滑な推進に関する検討等を行った。

指摘事項等があった場合には、事業計画等の変更等を含めて適切に対応することとした。

ウ) 超音波検査技術研修会開催事業

(ア) 研修会資料作成

新型コロナウイルス感染症等により研修会の開催が困難となった場合であっても、オンライン開催で受講者が一定の知識を習得できるように新たな研修会用資料を作成するため、令和4年8月2日に国立大学法人宮崎大学住吉フィールドで資料作成のためのビデオ撮影を行い編集した。資料は、必要に応じて提供し活用する。

(イ) 技術指導者養成研修会開催

超音波検査技術の普及と実務者の疑問に回答できる指導者を育成するため、全都道府県に最低1名以上の技術指導者を配置するための養成研修会を、令和4年12月6日に国立大学法人宮崎大学住吉フィールドで開催した。本研修会には、福島県、栃木県、茨城県、島根県から各1名の獣医師が参加した。

(ウ) 道府県技術者研修会開催

道府県において、家畜人工授精技術者を対象とした道府県単位の超音波検査技術の実技研修会を表1のとおり開催した。

表1 道府県技術者研修会開催実績

道県名	開催日	開催場所	講師	参加者数
北海道	R4. 11. 17	北海道立総合研究機構酪農試験場	窪 友瑛(酪農試験場)	10
岩手県	R4. 12. 12	小岩井農牧(株)小岩井農場	大津信一(全農いわて)	8
鹿児島県	R5. 1. 6	JAいぶすき開聞中央支所	大澤健司(宮崎大)	13
鹿児島県	R5. 1. 20	種子島家畜市場	大澤健司(宮崎大)	11
宮崎県	R5. 3. 16	宮崎大学農学部住吉フィールド	大澤健司(宮崎大)	6

(エ) 広域技術者研修会開催

独立行政法人家畜改良センター(十勝牧場、奥羽牧場、本所(白河)、鳥取牧場、宮崎牧場)と共催し、(ウ)で開催できない地域の家畜人工授精技術者を対象とした超音波検査技術の実技研修会を開催した(表2)。

表2 広域技術者研修会開催実績

開催日	開催場所	講師	参加人数	参加者道県名
R4. 8. 25	本所(白河)	高橋 透(岩手大)	9	福島県、茨城県、栃木県
R4. 11. 9	宮崎・熊本牧場	北原 豪(宮崎大)	7	福岡県、大分県、宮崎県
R4. 12. 2	奥羽牧場	坂口 実(北里大)	11	青森県、山形県
R4. 12. 16	鳥取牧場	西村 亮(鳥取大)	8	兵庫県、鳥取県、島根県、愛媛県
R5. 1. 26	十勝牧場	羽田真悟(帯畜大)	8	北海道

エ) 技術向上普及事業

超音波検査実技研修会で習得した技術を利用した成果、事例や問題点等を発表形式で共有することを目的とした家畜人工授精優良技術発表全国大会を開催した。また、家畜人工授精実務者の多くが要望する「定時人工授精」について、日本獣医生命科学大学の三浦亮太郎講師に特別講演を依頼した。

オ) 繁殖基盤情報整備事業

繁殖基盤強化につながる乳用牛への黒毛和種精液、性選別精液等の交配状況を調査し、四半期ごとに集計結果をホームページ等で公表した(表3)。

また、次年度から調査を開始する受胎率データについて、全会員に対して受胎率データの取りまとめ状況を調査し、毎年受胎率データを取りまとめている県等に対しては会員ならびに主務課等に成績提供依頼を前提とした協議を持った。

表3 交配調査情報の発信実績

公表時期	公表内容
令和4年 7月 29日	F1 交配調査について、令和3年全期の確報値と令和4年第1四半期(1～3月)の中間集計結果を公表。
令和4年 10月 24日	F1 交配調査について、令和4年第1四半期の確報値と令和4年第2四半期(4～6月)の中間集計結果を公表。
令和5年 1月 31日	F1 交配調査について、令和4年第2四半期の確報値と令和4年第3四半期(7～9月)の中間集計結果を公表。
令和5年 4月 4日	F1 交配調査について、令和4年第3四半期の確報値と令和4年第4四半期(10～12月)の中間集計結果を公表。

(3) 生涯生産頭数増加への乳牛子宮環境改善技術開発事業
(公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成事業(東京農業大学との共同研究事業))

乳用牛の長期不受胎牛の救済のための子宮環境の根本的改善に向けた技術開発を東京農業大学ならびに日本獣医生命科学大学が共同実施する中で、現地調査、技術情報周知会ならびに開発される成果についての技術検討会の開催を担当した(表4)。

表4 実績

	開催(訪問)日	開催(訪問)場所
技術検討会	令和4年 8月 29日	福岡県久留米市
	令和4年 10月 17～19日	北海道釧路市
	令和4年 11月 13～15日	北海道帯広市
	令和5年 3月 1～2日	北海道中標津町経済センター
技術情報周知会	令和5年 2月 15～17日	沖縄県糸満市・国頭村
	令和5年 3月 16～17日	渥美牛群管理サービス
現地調査会	令和4年 6月 22日	栃木県那須塩原市
	令和4年 7月 6日	北海道沙流郡
	令和5年 3月 8～9日	愛知県畜産総合センター、(株)よくつく(堺市)